

千 歳 市 教 育 大 綱

重点施策	主要施策の概要	主要事務事業と予算額
<p>(1) 確かな学力の向上</p>	<p>1 学校指導訪問や授業におけるICT機器の発展的な活用、学力向上検討委員会の運営、小中連携の推進など、学校と連携した取組を促進するため、新たに「学校指導室」を設置し、学校指導体制を充実 新規</p> <p>2 「学力向上検討委員会」では、全国学力・学習状況調査の結果分析を行い、今後の取組に関する課題や提言をまとめるとともに、3部会「授業スタンダード作成部会」、「ICT機器を活用した授業改善案作成部会」、「QU検査活用事例作成部会」による専門的な研究協議を実施し、学力向上に向けた指導法の工夫改善や学習意欲向上のための取組を実施</p> <p>3 小学校13校に配置している14名の「学習支援員」を活用した小学校の算数科による習熟度別少人数指導を推進するとともに、「学習支援員」を第2種非常勤職員に位置づけ、適切な人事管理と指導力のある人材を確保、学力向上に大変有効であり、小学校からは増員、中学校からは新規導入の要望が強いことから、学習支援員の拡充が課題</p> <p>4 各学校の「学校改善プラン」に関するヒアリングを踏まえた、学力向上の重点項目「授業内容の理解定着」、「家庭学習の充実」、「算数・数学科における習熟度別指導・TT指導等の指導方法改善・充実」の全校における着実な定着 拡充</p> <p>5 子どもたちの教育環境の向上を図るため、新たに全小中学校で「土曜授業」を年4回実施、1回目4月16日または23日、2回目5月14日、3回目9月24日、4回目12月10日に市内統一で実施し、土曜日午前3時間授業を実施（通常授業や公開授業、交通安全教室、避難訓練、人権教室など） 新規</p> <p>6 千歳科学技術大学の学生ボランティアを活用した長期休業中の「学習サポート事業」を実施するとともに、家庭学習の教材として千歳科学技術大学と連携した「eラーニングシステム」の内容充実の検討、「eカレッジ」の参加を促進</p> <p>7 子どもたちのスマートフォンやゲーム機の使い方、家庭学習時間の確保など、生活習慣の改善を図るため、「早寝早起き朝ごはん」運動を推進するとともに、千歳市PTA連合会が作成した「千歳市家庭生活宣言」の普及を促進 拡充</p> <p>8 学校生活の意欲や学級満足度を把握する「ハイパーQU検査」の対象学年を小中学校の全学年に拡大し、実施回数も年1回から2回に増加（中学校3年生は1回） 拡充</p> <p>9 児童生徒の体力向上のため、リズム感やバランスなど運動神経の発達を促すコーディネーション運動の取組を推進するとともに、新体力テストの実施方法改善に向けた実践協力校（祝梅小、桜木小、北斗中）の取組の普及、各学校が体力向上や運動習慣の定着に向けて創意工夫した「1校1実践」を実施 拡充</p>	<p>学校指導訪問の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校経営訪問（新任校長着任校） 一般訪問（全校） <p>学力向上推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上検討委員会活動経費 626千円 「学習支援員」配置経費 29,691千円 <p>学校改善プランに基づく重点項目の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点3項目の全校的な速やかな実施 「土曜授業」の全校統一実施 <p>学習サポート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生ボランティア報酬 450千円 <p>学校活動支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> eラーニング支援委託 752千円 <p>「ハイパーQU検査」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 検査実施経費 6,885千円 <p>新体力テストの実施方法改善に向けた実践事業</p>
<p>(2) 教育環境の整備</p>	<p>1 子どもたちの学習に対する意欲や関心を高め、効果的な授業を展開するため、全小中学校の普通教室に整備を完了した電子黒板、実物投影機、ブルーレイレコーダーを全小中学校の少人数指導用教室、特別教室、特別支援学級に2か年で整備（28年度は、小学校の少人数指導用教室と特別支援学級及び中学校の理科室と特別支援学級に整備） 拡充</p> <p>2 中学校の教科書改訂に合わせて、全中学校にデジタル教科書（主要5教科と地図）を導入 拡充</p> <p>3 北陽小学校に整備したタブレット端末の活用効果を検証し、今後の校内無線LAN・タブレット端末整備を検討 新規</p> <p>4 安全・安心な教育環境を確保するため、校舎や外壁、屋根、トイレ、放送設備などの大規模改修の実施、屋内運動場の非構造部材の耐震化工事を実施（校舎耐震化は平成19年度～25年度、非構造部材耐震化は平成26年度～30年度）</p> <p>5 教職員の校務における事務負担の軽減ときめ細かな指導の充実を図るため、校務支援システムを平成27年度に導入したモデル実践校小学校3校、中学校3校から市内全小中学校へ拡大導入 拡充</p> <p>6 小中学校司書配置の業者選定をプロポーザル方式により実施、全小中学校に配置している学校司書を6名（4校に1名）から7名（3・4校に1名）に拡大し、環境整備や選書、調べ学習のアドバイスなど学校図書館の運営を支援 拡充</p>	<p>小中学校ICT機器等整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子黒板、実物投影機等 小学校52セット、中学校14セット 42,522千円 中学校デジタル教科書経費 9,505千円 <p>小中学校大規模改修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模、放送設備改修 240,458千円 <p>小中学校非構造部材耐震化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 非構造部材耐震化 4,775千円 <p>校務支援システム導入事業 10,143千円</p> <p>小中学校司書配置事業 18,390千円</p>

千 歳 市 教 育 大 綱

重 点 施 策	主 要 施 策 の 概 要	主 要 事 務 事 業 と 予 算 額
(3) 外国語教育の充実	1 早期から英語に慣れ親しませ、英語によるコミュニケーション能力を育成するため、外国語活動の実施学年を拡大し、全小学校の1年生から4年生において、新たに作成した共通の指導計画・指導案に基づく外国語活動を実施（小学1,2年 年間5時間、小学3,4年 年間10時間、小学5,6年 年間35時間） 拡充 2 小学校の外国語活動の成果を検証し、円滑に中学校英語につなげるため、全小学校6年生を対象に、「英語能力判定テスト英検I B A」を実施（リスニングテスト、学校ごとに受験日を設定、「英検 級レベル」が何名いるなどの把握） 新規 3 外国人英語指導助手（A L T）による小学校におけるリスニング用C Dの作成、中学校における長期休業期間中の外国語サポート事業を実施 4 国際理解教育の充実を図るため、総合的な学習の時間などにおいて外国の文化に触れ合う機会を提供するとともに、アンカレジ市ミアーズ中学校を訪問する生徒を12名から20名に拡大（平成29年1月にミアーズ中学校訪問予定） 拡充	英語活動推進事業 ・英語学習市民講師経費 873千円 ・教本教材経費 480千円 ・I B A検査経費 500千円 ・A L TのリスニングC D作成 20千円 ・A L Tの英語サポート事業 23千円 ミアーズ中学校交流事業 ・ミアーズ中学校訪問 3,690千円
(4) いじめ・不登校の対策	1 「千歳市いじめ防止基本方針」に基づき、学校・家庭・地域・関係機関が連携し、いじめ根絶に向けた取組を推進 2 北海道教育委員会から派遣されたスクールカウンセラー及び市単独事業として配置しているスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、心の教室相談員を活用し、いじめや不登校、暴力行為などに対応する教育相談体制を充実 3 いじめ問題への対応のため、学校・警察・P T Aなどによる「いじめ問題等対策連絡協議会」との連携、年4回の「いじめアンケート」の実施、「いじめ相談ボックス」の活用、「なかよしさわやかD A Vいじめシンポジウム」の開催、「千歳市いじめ問題専門委員会」によるいじめ対策の成果と課題の検証 4 全校統一的な不登校対策を行うため、「不登校学校対応マニュアル」を作成し、欠席7日以上となった段階で市教委に速報を行い、校内支援チームを編成し速やかな対応を実施 拡充 5 児童生徒の一日も早い学校復帰のため、学校適応指導教室「おあしす」を運営 6 ネット上のいじめやネットトラブルの防止のため、ネットパトロールの実施と「情報モラル教育」の充実 7 「ハイパーQ U検査」の検査結果を学校生活の意欲や満足度の把握、いじめ・不登校の未然防止に活用 拡充	千歳市いじめ防止基本方針の推進 スクールカウンセラー配置 4,557千円 千歳市6人 小学校9校、青少年課 北海道6人 小学校6校、中学校8校 心の教室相談員配置事業 4,622千円 13人 小学校13校 生徒指導事業 ・いじめ専門委員会報酬 1,583千円 ・いじめシンポジウム経費 468千円 「不登校学校対応マニュアル」の推進 適応指導教室運営事業 2,536千円
(5) 生涯学習の推進	1 自主的な学習活動を支援し市民協働のまちづくりを進めるため、「千歳学出前講座」や「生涯学習フォーラム」、「ふるさとポケット」を実施、市民活動交流センター「ミナクール」の管理運営、「ミナクールまつり」等のイベントを開催 2 まちづくりを行う人材や団体の育成のため、ひと・まちづくりリーダー養成事業の実施、「みんなで、ひと・まちづくり委員会」の委員に、新たに大学生と高校生を加え、新しい発想による事業を展開 3 地域による子どもたちの活動支援のため、「学校支援地域本部事業」の支援対象校を17校から20校に拡大 拡充 4 児童の放課後の居場所づくりのため、児童館未設置地区である緑小学校区に、「放課後子ども教室」を開設 新規 5 来館者の利便性と安全性の向上を図るため、千歳公民館の館内を土足可能とするエントランスを改修 新規 6 来館者の利便性の向上を図るため、市立図書館に利用者のバッグやカバンを預けるコインロッカーを設置 新規 7 読書環境の充実のため、市立図書館における高齢者入所施設へ貸出を行う「高齢者支援サービス」の実施、平成27年度に試行的に実施した、乳幼児を持つ母親が気軽に来館できる「赤ちゃんタイム」を毎月1回実施 拡充 8 国指定史跡「キウス周堤墓群」を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録に向けた取組を実施 9 郷土の自然史資料、歴史・民俗資料、開拓資料などの収蔵展示に向けた展示実施計画を策定 新規 10 埋蔵文化財の理解を深めるため、企画展示や講演会、体験学習会の実施、啓発パンフレットの作成 11 英語に対する興味や関心を高めるため、小学5、6年生を対象に「イングリッシュキャンプ」を年2回実施 拡充	生涯学習推進事業 ・生涯学習フォーラム経費 317千円 ・千歳学出前講座経費 1,505千円 ふるさとポケット補助金 2,750千円 ミナクール管理運営事業 13,213千円 ひと・まちづくりリーダー養成事業 1,200千円 学校支援地域本部事業 2,122千円 放課後子ども教室推進事業 374千円 縄文遺跡群世界遺産登録推進事業 ・世界遺産登録推薦書作成負担 372千円 文化財普及啓発事業 ・市内遺跡地図、美々貝塚パンフ 752千円 ・普及啓発事業経費 1,537千円

